

『理趣広経』「真言分」のプダク写本について

—資料編—

徳重弘志

1 はじめに

『理趣広経』（ŚP）とは、インド中期密教を代表する経典の一つであり、玄奘訳『大般若経』第578巻（『般若理趣分』）から発展した経典群に属している。本経典は、サンスクリット原典が散逸しており、チベット語訳と漢訳のみが現存している。そのうち、チベット語訳に関しては、翻訳者が異なる以下の一組の経典が現存している。

Śraddhākaravarman, Rin chen bzang po 訳, *dPal mchog dang po zhes bya ba theg pa chen po 'i rtog pa 'i rgyal po*, D no. 487, P no. 119, Ph no. 476, 11世紀前半¹。

Mantrakāśa, lHa btsan po Shi ba 'od 訳, *dPal mchog dang po 'i sngags kyi rtog pa 'i dum bu zhes bya ba*, D no. 488, P no. 120, Ph no. 477, 11世紀前半²。

このうち、前者の Rin chen bzang po 訳は「般若分（大楽金剛不空三昧耶）」（ŚP I）、後者の Shi ba 'od 訳は「真言分」と呼称されている。また、「真言分」に関しては、「大楽金剛秘密」（ŚP II）と「吉祥最勝本初」（ŚP III）という2編から構成されている。このように ŚP は、ŚP I、ŚP II、ŚP III といった段階的に成立した3編が、後代に一つに統合された経典である³。

なお、現存してはいないが、Rin chen bzang po 訳の ŚP I、ŚP II、ŚP III を統合した ŚP が存在したと伝えられている。その Rin chen bzang po 訳の ŚP は、ŚP I に関しては現存する ŚP と同一であるが、ŚP II と ŚP III に関してはサンスクリット原典の欠落箇所を残していた。そのため、Rin chen bzang po の死後に、Shi ba 'od が新たな原典を入手して、ŚP II と ŚP III における欠落箇所を補った上で、Rin chen bzang po 訳の ŚP I と統合した結果、現存する ŚP が成立した。このことから、Shi ba 'od による現存する ŚP を「完訳本」とすれば、Rin chen bzang po 訳の ŚP は「未完訳本」ということになる⁴。

また、ŚP の逐語的な註釈書としては、Rin chen bzang po 訳の『吉祥最勝本初広釈』（*Tikā*）が現存しているが、この註釈書に引用された ŚP は、ŚP II と ŚP III におけるサンスクリット原典の欠落箇所を残していると伝えられている⁵。そのため、*Tikā* に引用された ŚP は、訳者が同一であることから、「未完訳本」と内容が一致している可能性が高いと判断できる。

さて、ŚP のチベット大蔵経諸版のうち、ŚP II と ŚP III に属する幾つかの章においては、プダク写本(Ph)⁶の読みがツェルパ系統やテンパンマ系統とは大幅に異なっていることが判明した。その中でも、ŚP II の第2章である「一切如来の大秘密の広大儀軌」（ŚP II-2）⁷には、Ph と他の諸版との相違が顕著に見られる。

本稿では、Ph と他の諸版とが顕著に相違している原因について論述した上で、ŚP II-2 の和訳⁸および校訂テキストを、ŚP の蔵漢所在対照表とともに提示することにより、ŚP における Ph を知るための一助としたい。

2 『理趣広経』「真言分」におけるブダク写本

[1] 「真言分・大楽金剛秘密」におけるブダク写本

ŚP II に関しては、その第 1 章である「極喜金剛秘密の供養の廣大儀軌」（ŚP II-1）⁹ や、本稿で扱う ŚP II-2 を含む複数の章において、Ph の読みが他の諸版とは大幅に異なっている。例えば、ŚP II-1 と ŚP II-2 には、Ph 以外の諸版では偈頌となっている箇所が、Ph でのみ散文になっているという用例が存在する¹⁰。

そこで、ŚP II-1 と ŚP II-2 における上述の用例と、*Tīkā* に引用された ŚP におけるそれらと対応する箇所の記述とを比較した。その結果、*Tīkā* に引用された ŚP における該当箇所は、Ph と同様に散文となっており、語順や語句も Ph とほぼ一致しているということが判明した。これ以外にも、ŚP II-1 と ŚP II-2 においては、Ph にのみ存在する語句が、*Tīkā* に引用された ŚP に記されている用例が散見される。

先述したように、*Tīkā* に引用された ŚP は、Rin chen bzang po 訳の「未完訳本」と内容が一致していると推測できる。そのため、ŚP II-1 と ŚP II-2 における Ph は、*Tīkā* に引用された ŚP と特徴的な箇所の語順や語句が一致していることから、従来未発見であった Rin chen bzang po による「未完訳本」である可能性が存在する。

これに対して、ŚP II-1 と ŚP II-2 には、Ph 以外の諸版にのみ存在する語句が、*Tīkā* に引用された ŚP と一致する用例も存在する。これについては、Shi ba 'od が「完訳本」を作成する過程において、Rin chen bzang po が翻訳した *Tīkā* を参照し、訳文にその影響を受けたと推測できる。なお、「未完訳本」と *Tīkā* との記述は、サンスクリット原典の段階か、あるいは Rin chen bzang po が翻訳を行った段階で、語句に若干の相違が生じていたと推定できる。そのため、*Tīkā* を参照したと見做される「完訳本」に、「未完訳本」よりも *Tīkā* の記述と一致する箇所が存在したとしても、不自然とは言えないであろう。

これに関連して、「完訳本」でのみ偈頌になっている箇所などは、Shi ba 'od が依拠したサンスクリット原典の記述が、*Tīkā* に引用された ŚP とは大きく異なっていたため、その訳文から影響を受けておらず、その結果として「未完訳本」とは内容が大幅に相違していると考えられることができる。

なお、ŚP II には奥書が存在しないが、「真言分」の末尾に存在する ŚP III の奥書には、Shi ba 'od が翻訳者であるとチベット大蔵経諸版に共通して記されている。しかし、ŚP III の奥書から読み取れるのは ŚP III の翻訳者が Shi ba 'od ということだけであり、Ph における ŚP II の翻訳者が Shi ba 'od であるという根拠にはなり得ないと考えることができる。

[2] 「真言分・吉祥最勝本初」におけるブダク写本

ŚP III に関しては、その第 17 章である「最高の大秘密の吉祥三昧耶と、一切悉地召請と、大供養と、自身を加持することなどの悉地の廣大儀軌」（ŚP III-17）¹¹ における Ph の読みが、他の諸版とは大幅に異なっている。

そこで、ŚP III-17 における Ph と他の諸版とが顕著に相違している記述と、*Tīkā* に引用された ŚP におけるそれらと対応する箇所の記述とを比較した。その結果、ŚP III-17 においては、

Ṭikā に引用された ŚP における該当箇所は、原則として Ph 以外の諸版と語句が一致することが判明した。なお、その原因としては、次の二つの可能性が想定できる。

一方は、先程と同様に、Shi ba 'od が「完訳本」を作成する過程において、Rin chen bzang po が翻訳した *Ṭikā* を参照し、訳文にその影響を受けたという可能性である。他方は、ŚP III においては、Ph 以外の諸版と、*Ṭikā* に引用された ŚP の内容が、サンスクリット原典の段階からほぼ一致していたという可能性である。

これに対して、ŚP III-17 における Ph は、他の諸版のみならず、*Ṭikā* に引用された ŚP と異なる記述を有している。先述したように、ŚP III の奥書には、Shi ba 'od が翻訳者であるとチベット大蔵経諸版に共通して記されている。そのため、ŚP III-17 における Ph と他の諸版とで語句が顕著に相違していることには、何らかの要因が存在したと推測できる。そして、その要因としては、次の二つの可能性が想定できる。

一方は、Shi ba 'od による ŚP の最終的な翻訳が Ph 以外の諸版として広く伝えられているが、そこに至るまでの過渡的な翻訳も存在しており、その一部が ŚP III-17 という形で Ph に残されているという可能性である。他方は、Shi ba 'od が ŚP のサンスクリット原典を複数入手しており、Ph 以外の諸版である「完訳本」とは異なる原典からの翻訳も存在し、その一部が ŚP III-17 という形で Ph に残されているという可能性である。

なお、ŚP III-17 におけるこれらの問題に関しては、現段階では判断を下すことができないため、今後の課題としたい。

3 「一切如来の大秘密の廣大儀軌」の和訳および校訂テキスト

[1] 校訂および和訳に際して

本稿では、チョネ版、デルゲ版、ラサ版、ジャンサタム／リタン版、ロンドン／シェルカル写本、ナルタン版、北京版、プダク写本、トクパレス写本、東京写本、ウルガ版、永楽版を校合した上で、ツェルパ系統(C, D, J, P, U, Y) に基づく校訂テキストを作成し、それに基づいて和訳を行った¹²。校訂テキストは和訳の後に提示した。

なお、プダク写本に関しては、他の諸版とは多くの箇所語順や語句が相違しているため、校訂テキストでは後註にプダク写本における読みを示さず、校訂テキストの後にプダク写本のテキストを単独で提示する。また、プダク写本に基づく和訳についても、校訂テキストに基づく和訳の後に単独で提示する。

また、チベット語訳テキストでは、異なる写本におけるシェー(shad) の用いられ方や、現在の正書法に従わないツェク(tshag) の用いられ方については報告しない。略字(bsdus yig) については、その原型を報告することなく、正規形で提示する。

後註においては、左端に示す読みが本稿において採用した読みであり、角括弧〔 〕を挟んでその読みを支持するチベット大蔵経諸版の略号を示した。また、採用した読みと異読とはコロンの(:) で分け、複数の異読同士はセミコロン(;) で分けた。

和訳においては、亀甲括弧〔 〕内には筆者が補った語句を示す。さらに、チベット文字の音写で記される真言は、還梵したサンスクリットを丸括弧() 内に入れた。

[2] 和訳 1(ツェルパ系統に基づく校訂テキスト)

続いて、世尊、大楽金剛三昧耶薩埵の加持〔によって〕¹³ 秘密の法を有する大毘盧遮那は、一切如来¹⁴ の拳をしっかりと握りしめること¹⁵ によって、「一切如来の輪¹⁶ を加持する金剛」という三摩地に等しく入って、自身の金剛薩埵¹⁷ に勧請した。

大楽が成就されるとともに、
大欲が清浄であるから、
如来はまさに無辺である
最上の部族を出生することを勧請する。 [1]

続いて、世尊・大持金剛¹⁸ は、一切如来の三昧耶〔の〕¹⁹ 大楽が不壊という〔金剛杵を〕²⁰ 押さえ付けてから、世尊〔・大毘盧遮那・一切如来〕²¹ の一切の身語心金剛に住して、一切の自性が〔大毘盧遮那に〕²² 等しく身に付いてから、次の大楽金剛の印〔を出生する〕²³ 陀羅尼を説いた。「オーン、ダン(om dham)」。

続いて、この〔陀羅尼〕²⁴ が説かれただけで、
六種震動して、
すべての仏子を伴う者が、
完全に集合した後に、堅固²⁵ になるであろう。 [2]

大曼荼羅の方法で、
一切を成就するために普く住するであろう。
卓越した大笑をなせ。
大希有を十分に笑うべきである。 [3]

続いて、世尊・如来・金剛薩埵は、次のように金剛慢〔印〕²⁶ によって住して、次の「大楽三昧耶金剛秘密」という陀羅尼の〔諸印によって〕²⁷ 曼荼羅を説いた。

次のように、規則に応じて〔曼荼羅を〕²⁸ 描いてから、
勝者は左〔手〕²⁹ に〔金剛〕³⁰ 慢〔印〕³¹ を握る。
最勝の三昧耶のうちの最勝³² を配置してから、
「汝は三昧耶である(samayas tvam)」と唱えるべきである。 [4]

如来の子を伴って、
金剛杵や武器などを手にしている
菩薩摩訶薩³³ は、
華鬘などを〔持った手で〕³⁴ 額〔の前〕³⁵ に合掌している。 [5]

その場合、以下が引入などの優れた廣大儀軌である。一切如来を礼拝する印³⁶と、次の金剛歌によって引入すべきである。

金剛薩埵³⁷を取り入れることによって、
無上なる金剛宝〔になるべきである〕³⁸。
金剛法〔の〕³⁹歌詠によって、
〔汝は〕⁴⁰金剛業をなす者になるべきである。〔6〕⁴¹

続いて、引入してから、一切如来の智の陀羅尼〔によって示す部族〕⁴²を大樂金剛秘密の鉤〔印〕⁴³によって召請すべきである。

「オーン、持金剛よ、天よ、大樂において、一切法平等性によって、一切如来の智よ、マイ⁴⁴、諸々の真言句によって、ジャッハ、フーン、ヴァン、ホーッホ。(om vajradhara sura mahāsukhe sarvadharmasamatayā / sarvatathāgatajñāna mai mantrapādaiḥ jaḥ hūṃ vaṃ hoḥ /)」。

続いて、一切如来が〔大樂金剛秘密の鉤印によって〕⁴⁵捉えた者を伴って、来臨されたであろう。〔一切如来が持金剛を保持したならば、〕⁴⁶歓喜などの標幟が生じるであろう。種々の神通力が現れるであろう。

続いて、廣大儀軌⁴⁷と、成就と、心によって望む一切の悉地と、確実なもの、無礙を、速やかに最上なる〔毘盧遮那〕⁴⁸が成就したのである。〔金剛薩埵の大曼荼羅を無碍にすることなどの儀軌と〕⁴⁹同様に〔廣大儀軌を〕⁵⁰行うべきである。

続いて、成就していないことを、〔心呪を〕⁵¹回念誦することによって、諸々の事業をなすべきである。

一切を守護することに関しては、金剛頂髻〔印〕⁵²によって〔成就すべきである〕⁵³。一切衆生を敬愛することに関しては、金剛白毫〔印〕⁵⁴によって〔成就すべきである〕。一切の法性を獲得することに関しては、金剛法性〔印〕⁵⁵によって〔成就すべきである〕。一切如来の供養の悉地に関しては、金剛供養〔印〕⁵⁶によって〔成就すべきである〕。一切の悪人を調伏することに関しては、金剛忿怒〔印〕⁵⁷によって〔成就すべきである〕。菩提行を完全に満たすべきことに関しては、金剛行の印⁵⁸によって〔成就すべきである〕。一切の魔を滅することに関しては、一切の魔を滅する〔印〕⁵⁹によって〔成就すべきである〕。一切如来の自性をなすことに関しては、金剛智拳〔印〕⁶⁰によって〔成就すべきである〕。

〔以上が、〕⁶¹「大樂金剛秘密」からの「一切如来の大秘密の廣大儀軌」である。如来の曼荼羅が説かれた。

[3] 和訳 2(ブダク写本の校訂テキスト)

続いて、世尊、大楽金剛三昧耶の加持によって法〔を有する〕⁶² 大毘盧遮那は、一切如来の拳をしっかりと握りしめる。「一切如来の輪を加持する金剛」という三摩地に等しく入ってから、自身の金剛薩埵に勧請した後に住した。

大欲が清浄であるから、如来はまさに無辺である最上の大地をも部族とともに出生することを勧請する。(≡ [1])

続いて、世尊・持金剛は、一切如来の三昧耶の大楽〔が不壊という〕⁶³ 金剛杵を押しえ付けてから、世尊・大毘盧遮那・一切如来の身語心金剛に住して、次の一切の自性が平等の大楽金剛の印を出生する陀羅尼を説いた。「オン、ディ(om dhi)」。

続いて、この〔陀羅尼〕が説かれただけで、六種震動がある。すべての如来の子を伴う者が来臨し、集合してから、堅固になった後に、一切を成就するために、大曼荼羅の方法〔で〕⁶⁴ 引入して、卓越した大笑をなせ。大希有を充分に笑うべきである。(≡ [2], [3])

続いて、世尊・如来・金剛薩埵は、金剛慢〔印〕によって住して、次の「大楽三昧耶金剛秘密」〔という陀羅尼〕⁶⁵ を憶持するために〔諸印によって〕曼荼羅を説いた。

優れた規則のとおり〔曼荼羅を〕描くべし。

金剛慢〔印〕を最高の勝者〔は左手に握る〕⁶⁶。

「汝は三昧耶である(samayā tvam)」と唱えた後に、

衆会を伴って面前に住して下さいませ。⁶⁷ [4]

如来の子を伴って、

金剛杵や武器をしっかりと握りしめる

菩薩摩訶薩は、

華鬘などを〔持った手で〕額〔の前に〕⁶⁸ 合掌している。 [5]

その場合、以下が引入などの廣大儀軌である。一切如来を礼拝する印によって引入すべきである。

金剛薩埵を取り入れることによって、

無上なる金剛宝〔になるべきである〕。

最勝なる金剛〔法〕⁶⁹ の歌詠によって、

〔汝は〕諸々の金剛業をなす者になるべきである。 [6]

という以上の金剛歌によって引入すべきである。

続いて、引入してから、一切〔如来〕⁷⁰ の智の陀羅尼〔によって示す部族〕を召請すべきであり、すなわち大楽金剛〔秘密の〕⁷¹ 鉤〔印〕によってである。

「オーン、持金剛よ、大歡喜よ、大樂よ、一切法平等性によって、akarśaya⁷²、一切如来よ、nirmutrasapradā⁷³、ジャッハ、フーン、ヴァン、ホーツホ(om vajradhara surati mahāsukha sarvadharmasamatayā akarśaya sarvatathāgata nirmutrasapradā jah hūm vaṃ hoḥ //)」。

続いて、一切如来が持金剛を保持したならば、歡喜などの標幟が生じるであろう。多くの種類の神通力が現れるであろう。

続いて、「金剛薩埵の大曼荼羅を無碍にすることなどの儀軌と」同様に廣大儀軌を行うべきである。同様に、「廣大儀軌を」⁷⁴成就したならば、心に望む諸々の悉地〔を成就すること〕⁷⁵になるであろう。確実なもの、〔無〕⁷⁶礙を速やかに最上なる〔毘盧遮那〕が成就したこともあって、続いて、成就していないことをも、心呪を1回念誦することによって、一切の事業をなすべきである。

一切を守護することに関しては、金剛頂髻〔印〕によって〔成就すべきである〕。一切衆生を敬愛することに関しては、金剛白毫〔印〕によって〔成就すべきである〕。一切の法性を獲得することに関しては、金剛法〔印〕によって〔成就すべきである〕。一切如来の供養の悉地に関しては、金剛供養〔印〕によって〔成就すべきである〕。一切の悪人を調伏することに関しては、金剛忿怒〔印〕によって〔成就すべきである〕。菩提行を満たすべきことに関しては、金剛行の印によって〔成就すべきである〕。一切の魔を滅することに関しては、一切の魔を滅する〔印〕によって〔成就すべきである〕。如来自身になることに関しては、金剛智拳〔印〕によって〔成就すべきである〕。

〔以上が、〕「大樂金剛秘密」のうちの「一切如来の樂金剛秘密の廣大儀軌」によって〔説かれた〕⁷⁷。

[4] チベット語訳テキスト 1(ツェルパ系統に基づく校訂テキスト)

de nas bcom ldan 'das bde ba chen po rdo rje'i dam tshig gi sems dpa'i byin gyis brlabs⁷⁸ pa gsang ba'i chos can rnam par snang mdzad chen po de bzhin gshegs pa thams cad kyi khu tshur yongs su 'dzin pas de bzhin gshegs pa thams cad kyi 'khor lo byin gyis rlob⁷⁹ pa'i rdo rje zhes bya ba'i ting nge 'dzin la snyoms par zhugs te / rang gi rdo rje sems dpa' la gsol ba btab bo //

bde ba chen⁸⁰ po rab grub dang //
 'dod chags chen po rnam dag phyir //
 de bzhin gshegs pa mtha' yas nyid //
 dam pa'i rigs ni bskyed du gsol // [1]

de nas bcom ldan 'das rdo rje 'chang chen pos⁸¹ de bzhin gshegs pa thams cad kyi dam tshig⁸² bde ba chen po mi phyed pa'i⁸³ rnam par gnon pa mdzad nas / bcom ldan 'das kyi sku dang gsung dang thugs⁸⁴ rdo rje⁸⁵ thams cad la rab tu bzhugs⁸⁶ nas thams cad kyi bdag nyid mnyam par spros nas bde ba chen po'i rdo rje'i⁸⁷ phyag rgya'i gzungs 'di gsungs⁸⁸ so // om dham⁸⁹ /

de nas 'di ni gsungs⁹⁰ tsam gyis //
 rnam pa drug tu⁹¹ g-yos gyur te //
 sangs rgyas sras dang bcas pa kun //
 kun nas 'dus shing brtan⁹² par 'gyur⁹³ // [2]

dkyil 'khor chen po'i sbyor ba yis //
 thams cad grub phyir kun nas bzhugs //
 bzhad⁹⁴ pa chen po'i khyad par gyis //
 rmad byung chen por⁹⁵ rab tu bzhad // [3]

de nas bcom ldan 'das de bzhin gshegs pa rdo rje sems dpa' de bzhin du rdo rje bsn'yems pas bzhugs⁹⁶
 te / bde ba chen po'i dam tshig rdo rje gsang ba zhes bya ba'i gzungs kyi dkyil 'khor 'di⁹⁷ gsungs so //

'di⁹⁸ ltar chos kyis⁹⁹ bris nas ni //
 rgyal ba g-yon du bsn'yems 'dzin pa //
 dam tshig¹⁰⁰ mchog gi mchog bkod¹⁰¹ nas //
 sa ma ya stwam¹⁰² zhes brjod do // [4]

de bzhin gshegs pa sras dang bcas //
 rdo rje mtshon cha la sogs gzung¹⁰³ //
 byang chub sems dpa' sems¹⁰⁴ dpa' che //
 me tog la sogs spyir thal¹⁰⁵ sbyar // [5]

de la 'jug pa¹⁰⁶ la sogs pa'i¹⁰⁷ cho ga rgyas pa'i khyad par ni 'di yin te / de bzhin gshegs pa thams cad
 la phyag bya ba'i¹⁰⁸ phyag rgya dang rdo rje'i¹⁰⁹ glu 'dis¹¹⁰ 'jug par bya'o¹¹¹ //

rdo rje sems dpa' bsdus pa yis¹¹² //
 rdo rje rin chen bla na med //
 rdo rje chos ni glur blangs pas //
 rdo rje¹¹³ las ni byed par 'gyur // [6]

de nas rab tu zhugs¹¹⁴ nas de bzhin gshegs pa thams cad kyi ye shes kyi¹¹⁵ gzungs bde ba chen po rdo
 rje gsang ba'i lcags kyus dgug par bya'o //

om badzra dha¹¹⁶ ra su ra ma hā su khe sarba¹¹⁷ dharma¹¹⁸ sa¹¹⁹ ma¹²⁰ ta ya / sarba¹²¹ ta thā ga ta¹²² dznyā
 na mai¹²³ mantra pā daiḥ¹²⁴ dzaḥ hūm baṃ hoḥ¹²⁵ /

de nas de bzhin gshegs¹²⁶ pa thams cad 'dzin pa dang bcas pa yang dag par byon par 'gyur ro // yid
 bde ba la sogs pa'i mtshan¹²⁷ ma 'byung ngo // cho 'phrul du ma dag mthong ba yin no //

de¹²⁸ nas cho ga rgyas pa dang / bsgrub¹²⁹ pa dang / yid kyis¹³⁰ 'dod pa'i dngos grub thams cad dang /
 don yod pa dang / thogs pa med par myur du dam pa grub pa yin no // de bzhin du bya'o¹³¹ //
 de nas ma bsgrubs par lan cig¹³² bzlas pas las nmams byed par 'gyur ro //
 thams cad bsrung¹³³ ba la ni rdo rje gtsug tor gyis so // sems can thams cad dbang du bya ba la ni rdo
 rje mdzod¹³⁴ spus so¹³⁵ // chos nyid thams cad thob pa la ni rdo rje chos nyid kyis so // de bzhin gshegs
 pa thams cad kyi¹³⁶ mchod pa'i dngos grub ni rdo rje mchod pas so // gdug¹³⁷ pa thams cad 'dul ba
 la ni rdo rje¹³⁸ khro bos so // byang chub kyi spyod pa ma lus par rdzogs¹³⁹ par bya ba la ni rdo rje
 spyod¹⁴⁰ pa'i phyag rgyas so // bdud thams cad gzhom pa la ni bdud thams cad 'joms par byed pas so
 // de bzhin gshegs pa thams cad kyi bdag¹⁴¹ nyid du bya ba la ni rdo rje ye shes kyi khu tshur gyis so //

bde ba chen po rdo rje gsang ba las / de bzhin gshegs pa thams cad kyi gsang ba chen po'i cho ga
 rgyas pa'o¹⁴² // de bzhin gshegs pa'i dkyil 'khor gsungs pa'o // //¹⁴³

[5] チベット語訳テキスト 2(フダク写本の校訂テキスト)

de nas bcom ldan 'das bde ba chen po rdo rje dam tshig gi byin gyis brlabs kyis chos rnam par snang
 mdzad chen po de bzhin gshegs pa thams cad kyi khu tshur yongs su 'dzin pa / de bzhin gshegs pa
 thams cad kyi 'khor lo byin gyis rlob pa'i¹⁴⁴ rdo rje zhes bya ba'i ting nge 'dzin la snyoms par zhugs
 nas rang gi rdo rje sems dpa' la gsol ba btab¹⁴⁵ zhing bzhugs par gyur to //

'dod chags chen po rnam dag phyir // de bzhin gshegs pa mtha' yas nyid // dam pa'i sa la 'ang rigs
 bcas skyed du gsol //(≒ [1])

de nas bcom ldan 'das rdo rje 'dzin pas de bzhin gshegs pa thams cad kyi dam tshig gi bde ba chen po
 rdo rje rnam par gnon par mdzad nas / bcom ldan 'das rnam par snang mdzad chen po de bzhin gshegs
 pa thams cad kyi sku dang / gsung dang / thugs rdo rje la bzhugs te / thams cad kyi bdag nyid mnyam
 pa'i bde ba chen po'i rdo rje'i phyag rgya bskyed pa'i gzungs 'di gsungs so // om dhi /

de nas 'di gsungs pa tsam gyis rnam pa drug tu g-yos so // de bzhin gshegs pa sras dang bcas pa thams
 cad byon zhing 'dus nas brtan par gyur pa dang / thams cad grub pa'i phyir dkyil 'khor chen po'i tshul
 zhugs te / bzhad pa chen po'i khyad par gyis / rmad 'byung chen po rab tu bzhad //(≒ [2], [3])

de nas bcom ldan 'das de bzhin gshegs pa rdo rje sems dpa' rdo rje bsnyems pa yis bzhugs te / bde ba
 chen po dam tshig gi rdo rje gsang ba bzung kyi dkyil 'khor 'di gsungs so //

ji ltar chos kyi legs bris pa //
 rdo rje bsnyems pa rgyal ba'i mchog //
 tshogs bcas mdun nas bzhugs gsol ba //
 sa ma ya stam zhes brjod cing // [4]

de bzhin gshegs pa sras bcas pa //
 rdo rje mtshon cha yongs su 'dzin //
 byang chub sems dpa' sems dpa' che //
 me tog la sogs spyi thal sbyar // [5]

de la 'di ni 'jug pa la sogs pa'i cho ga rgyas pa so // de bzhin gshegs pa thams cad phyag bya ba'i
 phyag rgyas 'jug par bya'o //

rdo rje sems dpa' bsdus pas na //
 rdo rje rin chen bla na med //
 rdo rje mchog gi glur blangs pas¹⁴⁶ //
 rdo rje las nams byed par 'gyur // [6]

zhes bya ba'i rdo rje'i glu 'dis 'jug par bya'o //
 de nas zhugs nas thams cad pa'i ye shes kyi gzungs¹⁴⁷ dgug par bya ba ste / bde ba chen po rdo rje
 lcags kyus so //

om badzra dha ra¹⁴⁸ su ra ti ma hā su kha sarba dharma sa ma ta ya a kar sha ya sarba ta thā ga ta nir
 mu tra sa prad da dza hūm bam ho //

de nas de bzhin gshegs pa thams cad rdo rje 'chang nye bar gyur pa na dga' ba la sogs pa'i mtshan
 ma 'byung bar 'gyur ro // cho 'phrul nram pa du ma mthong bar 'gyur ro // de nas de bzhin du cho ga
 rgyas par bya'o // de bzhin du bsgrubs na yid la 'dod pa'i dngos grub nams su 'gyur ro // don yod pa
 thogs pa myur du dam pa grub pa yang yin te / de nas ma bsgrubs par yang snying po lan gcig bzlas
 pas las thams cad byed par 'gyur ro //

thams cad bsrung ba la ni rdo rje gtsug tor¹⁴⁹ gyis so // sems can thams cad dbang du bya ba ni rdo rje
 mdzod spus so // chos nyid thams cad thob pa la ni rdo rje chos kyis so // de bzhin gshegs pa thams
 cad kyi mchod pa'i dngos grub ni rdo rje mchod pas so // gdug pa thams cad 'dul ba la ni rdo rje khro
 bos so // byang chub kyi spyod pa rdzogs par bya ba la ni rdo rje spyod pa'i phyag rgyas so // bdud
 thams cad gzhom pa la ni bdud thams cad 'joms par byed pas so // de bzhin gshegs pa nyid du byed pa
 la ni rdo rje ye shes kyi khu tshur gyis so /

bde ba chen po rdo rje gsang ba'i de bzhin gshegs pa thams cad kyi bde ba rdo rje gsang ba'i cho ga
 rgyas pas so //

4 『理趣広経』の蔵漢所在対照表

ŚPの構成に関しては、福田亮成¹⁵⁰、田中公明¹⁵¹、川崎一洋¹⁵²の各氏による先行研究が存在する。このうち、福田氏と田中氏は、『理趣広経』の各章について、チベット語訳と漢訳における所在を提示しているが、漢訳に合わせる形でチベット語訳における章を区分している。他方、川崎氏は、チベット語訳と漢訳における各章の題名を対照しているが、所在については提示していない。このように、先行研究におけるŚPの蔵漢所在対照表には、一長一短が存在する。

そこで、本稿では、チベット語訳に合わせる形で章を区分し、便宜上の通し番号、およびチベット語訳と漢訳の所在を整理した対照表を提示する。また、表中の「通番」における「I-1」はŚP Iの第1章を、「II-1」はŚP IIの第1章を、「III-1」はŚP IIIの第1章を、それぞれ表している。なお、「通番」のうち「I-14」に関しては、Shi ba 'od 訳の「真言分」に記されているが、内容的にはŚP Iに属している。

また、表中の「Tib.(P)」においては、北京版における各章の所在を提示した。さらに、「Tib.(Ph)」においては、プダク写本における各章の所在を提示した。そして、「漢訳」においては、ŚPの漢訳(大正 no. 244)における各章の所在を、第[]分という形式で提示した。

通番	各章の題名(Tib.)	Tib.(P)	Tib.(Ph)	漢訳
I-1	大三昧耶の真実金剛と称する大儀軌王	153b8-160b5	93b2-103b1	[1]
I-2	一切如来の真実の金剛三昧耶と称する儀軌王	160b6-162a6	103b1-105b6	[2]
I-3	降三世の金剛三昧耶と称する大儀軌王	162a6-165a7	105b6-110a6	[3]
I-4	一切煩惱清浄の三昧耶と称する大儀軌王	165a7-167a1	110a6-112b3	[4]
I-5	一切灌頂の宝の三昧耶と称する大儀軌王	167a1-168a5	112b3-114a5	[5]
I-6	一切印の拳の三昧耶と称する大儀軌王	168a5-170a5	114a5-117a4	[6]
I-7	大輪の如く文字を転ずる三昧耶と称する大儀軌王	170a5-171a5	117a4-118b3	[7]
I-8	一切曼荼羅の金剛の三昧耶と称する大儀軌王	171a5-172a4	118b3-120a1	[8]
I-9	種々金剛不空の三昧耶と称する大儀軌王	172a4-173a5	120a2-121b1	[9]
I-10	金剛三昧耶と称する大儀軌王	173a5-174a8	121b1-123a2	[10]
I-11	一切楽の三昧耶と称する大儀軌王	174a8-175a2	123a2-123b7	[11]
I-12	外金剛部の儀軌	175a2-177b4	123b7-127b5	[12]
I-13	般若波羅蜜の理趣	177b4-178a5	127b5-128b3	[13]
I-14	一切如来の大楽金剛秘密の般若波羅蜜の門	178a7-179a4	128b5-129b7	[14]
II-1	極喜金剛秘密の供養の廣大儀軌	179a4-187a5	129b7-141a2	欠
II-2	一切如来の大秘密の廣大儀軌	187a5-188a5	141a2-142a6	
II-3	極喜より生じた金剛秘密降伏の三昧耶の廣大儀軌	188a5-189a5	142a6-143b1	
II-4	大楽蓮華部の廣大儀軌	189a5-189b8	143b2-144b1	
II-5	一切の楽と心楽の摩尼部の廣大儀軌	190a1-190b5	144b1-145b3	
II-6	撰部の廣大儀軌	190b5-191a6	145b3-146a7	
II-7	大楽の大三昧耶の金剛秘密などの廣大儀軌	191a6-192b5	146a7-148b5	
II-8	本初の曼荼羅などの一切印のタントラの廣大儀軌	192b5-197a5	148b5-154a1	
II-9	世尊の大印のタントラ	197a5-198a8	154a1-155b6	
II-10	羯磨の印のタントラ	198a8-199b7	155b6-159a6	
II-11	如来部の印のタントラの廣大儀軌	199b8-200a6	159a6-159b6	
II-12	金剛部の印の廣大儀軌のタントラ	200a6-200b2	159b6-160a5	
II-13	蓮華部の印の廣大儀軌のタントラ	200b2-6	160a5-160b3	
II-14	摩尼部の印のタントラの廣大儀軌	200b6-201b2	160b3-161b4	
II-15	外の印の廣大儀軌のタントラ	201b2-5	161b4-162a2	

通番	各章の題名(Tib.)	Tib. (P)	Tib. (Ph)	漢訳
II-16	一切儀軌を成就する印のタントラの廣大儀軌	201b5-202a6	162a2-162b6	欠
II-17	一切部儀軌の秘密無碍にして決定の真実の真諦であり速やかに最勝の悉地の廣大儀軌を成就する一切のタントラ	202a6-203a2	162b6-164a1	
II-18	一切儀軌の続タントラの廣大儀軌	203a2-205a7	164a1-167b2	
II-19	三昧耶の真実を成就する悉地の廣大儀軌	205a8-205b8	167b2-168a7	
II-20	大真実の秘密の悉地を成就するタントラ	206a1-7	168a7-169a1	
II-21	最勝成就の続タントラ	206a7-209b1	169a1-173b5	
III-1	大楽なる金剛阿闍梨が加持して入る廣大儀軌のタントラ	209b1-214a6	173b6-180b3	[14]
III-2	弟子引入廣大儀軌のタントラ	214a6-215b3	180b3-182b2	[15]
III-3	一切儀軌の大悉地を確実に成就する廣大儀軌のタントラ	215b3-216b7	182b2-184a7	
III-4	一切儀軌を成就する悉地のタントラ	216b7-219a6	184a7-187b7	
III-5	一切印を成就する廣大儀軌のタントラ	219a6-219b1	187b7-188a5	[16]
III-6	菩提金剛加持の金剛の廣大儀軌	219b2-222a1	188a5-191b6	
III-7	大成就の廣大儀軌のタントラ	222a1-225a3	191b7-196a5	[17]
III-8	金剛火焰と太陽の如く燃える者の儀軌の廣大儀軌	225a3-225b8	196a5-197b4	[18]
III-9	大成就の儀軌のタントラ	225b8-227a6	197b4-199b6	
III-10	一切法無碍智の金剛の廣大儀軌	227a6-227b7	199b6-200b5	
III-11	心を円満させる金剛宝の儀軌の廣大儀軌	227b7-229b3	200b5-203b1	[19]
III-12	三世を取り去るタントラ	229b3-230b1	203b1-204b4	
III-13	四姉妹のタントラ	230b1-231a2	204b4-205b1	
III-14	龍の曼荼羅	231a2-231b1	205b1-206a2	[20]
III-15	一切苦から出るタントラ	231b1-5	206a2-7	
III-16	一切の最勝自在なる最高の曼荼羅の廣大儀軌	231b5-232b8	206a7-208a3	

通番	各章の題名(Tib.)	Tib.(P)	Tib.(Ph)	漢訳
III-17	最高の大秘密の吉祥三三昧耶と、一切悉地召請と、大供養と、自身を加持することなどの悉地の廣大儀軌	232b8-237a2	208a4-214a6	[21]
III-18	大歓喜の吉祥金剛不空の歓喜の三昧耶、一切瑜伽の自在、一切如来の吉祥なる自らの三昧耶の最勝秘密曼荼羅	237a2-7	214a6-214b4	
III-19	一切如来の吉祥大三昧耶の曼荼羅の甚秘密儀軌	237a7-243b4	214b4-223b4	[22]
III-20	最勝秘密の儀軌	243b4-244a8	223b5-224b4	[23]
III-21	金剛瑜伽の儀軌	244a8-245a2	224b4-225b2	
III-22	最勝秘密の金剛瑜伽のダーキニーの曼荼羅の最勝成就儀軌	245a2-249a1	225b2-231a5	
III-23	一切儀軌の成就の儀軌	249a2-249b5	231a5-232a5	
III-24	一切悉地加持の最勝秘密儀軌	249b5-250b7	232a5-233b6	
III-25	甚秘密の一切瑜伽の最勝秘密儀軌	250b7-253a8	233b7-237b1	
III-26	一切曼荼羅の儀軌	253b1-255a3	237b1-239b6	[24]
III-27	一切印のタントラの廣大儀軌	255a4-259a5	239b6-245b3	
III-28	金剛忿怒王の印のタントラ	259a5-263a2	245b3-250b7	[25]
III-29	聖観自在の印のタントラ	263a2-263b6	250b7-252a2	
III-30	一切灌頂の廣大儀軌	263b6-264a4	252a2-252b3	
III-31	外の印のタントラ	264a4-264b3	252b3-253a4	
III-32	一切部の印のタントラ	264b3-265a5	253a4-254a3	
III-33	秘密の最高の上師の吉祥なる自らの三昧耶の無上の最勝秘密の印の儀軌	265a5-266a8	254a3-255b6	
III-34	最勝秘密と称する印のタントラ	266a8-268b7	255b6-259a5	
III-35	最勝成就と称する印のタントラ	268b7-272a3	259a5-263b4	
III-36	最高の最勝成就と称する印のタントラ	272a4-273a2	263b4-264b7	欠
III-37	一切儀軌王の儀軌	273a2-277a5	264b7-271b6	

略号と参考文献

『印仏研』：『印度学仏教学研究』。『甘珠尔』：『中華大蔵経・甘珠尔』。大正：『大正新脩大蔵経』。『丹珠尔』：『中華大蔵経・丹珠尔』。add.: added in. C: チョネ版チベット大蔵経。D: デルゲ版チベット大蔵経。H: ラサ版チベット大蔵経。J: ジャンサタム／リタン版チベット大蔵経。L: ロンドン／シェルカル写本チベット大蔵経。N: ナルトン版チベット大蔵経。om.: omitted in. P: 北京版チベット大蔵経。Ph: プダク写本チベット大蔵経。S: トクパレス写本チベット大蔵経。ŚP: *Śrīparamādyā*, 『理趣広経』。ŚP I: 『理趣広経』「般若分（大楽金剛不空三昧耶）」。ŚP II: 『理趣広経』「真言分・大楽金剛秘密」。ŚP II-1: ŚP II 第1章。ŚP II-2: ŚP II 第2章。ŚP III: 『理趣広経』「真言分・吉祥最勝本初」。ŚP III-17: ŚP III 第17章。STTS: *Sarvatathāgatatattvasaṃgraha*, 『真実撰経』。T: 東京写本チベット大蔵経（東洋文庫所蔵）。*Ṭīkā*: *Śrīparamādyā-ṭīkā*, 『吉祥最勝本初広釈』。U: ウルガ版チベット大蔵経。Y: 永楽版チベット大蔵経。川越 1984: 川越英真「rNog Blo ldan śes rab と彼をめぐる人々」（『印仏研』32-2, 1984, (114)-(118)）。佐藤 2008: 佐藤直実『蔵漢訳『阿闍伽国経』研究』（山喜房佛書林, 2008）。田中 2010: 田中公明『インドにおける曼荼羅の成立と発展』（春秋社, 2010）。徳重 2013a: 徳重弘志「『理趣広経』における灌頂について」（『印仏研』61-2, 2013, (95)-(99)）。徳重 2013b: 徳重弘志「『理趣広経』の灌頂における阿闍梨の作法について」（『印仏研』62-1, 2013, (97)-(101)）。徳重 2014: 徳重弘志「『理趣広経』「極喜金剛秘密の供養の廣大儀軌」における灌頂 - 和訳および校訂テキスト -」（『高野山大学密教文化研究所紀要』27, 2014, (121)-(139)）。福田 1987: 福田亮成『理趣経の研究 - その成立と展開 -』（国書刊行会, 1987）。堀内 1983: 堀内寛仁『初会金剛頂経の研究 梵本校訂篇（上）』（密教文化研究所, 1983）。渡辺 1995: 渡辺章悟『大般若と理趣分のすべて』（北辰堂, 1995）。

付記：本稿の作成に際し、人文情報学研究所の苦米地等流博士はジャンサタム／リタン版のマイクロフィルム複写を快く御貸与下さいました。また、京都大学大学院の岡田英作氏には、ロンドン／シェルカル写本とプダク写本の複写入手に多大な御尽力を賜りました。記して感謝申し上げます。

¹ 訳出年代に関しては、Rin chen bzang po (958-1055) の生没年から判断した。

² Shi ba 'od は、西チベット王である Byang chub 'od (11世紀前半) の出家した兄弟であるため、本経典の訳出年代は11世紀前半である。これについては、田中 [2010: 175] を参照。

³ これについては、福田 [1987: 83-104] を参照。

⁴ これについては、川越 [1984: (115)] を参照。なお、この記述に関しては、高野山大学の藤田光寛教授よりご指摘いただいた。記して感謝いたします。

⁵ これについては、川越 [1984: (115)] を参照。

⁶ Ph は、様々な点で他のカンギュルとは異なっており、ツェルパ系統やテンパンマ系統とはサンスクリット原典が異なっていた可能性が指摘されている。これについては、佐藤 [2008: 76-77] を参照。

⁷ 当該の章の所在については、本稿の「4『理趣広経』の蔵漢所在対照表」における II-2 を参照されたい。

⁸ 本稿における和訳は、再検討を要する箇所を残しているため、大方の御叱正を賜りたい。

⁹ 当該の章の所在については、本稿の「4『理趣広経』の蔵漢所在対照表」における II-1 を参照されたい。

¹⁰ ŚP II-1 における用例については、拙稿(徳重 [2013b: (99)]) を参照されたい。また、ŚP II-2 および ŚP III-17 における用例については、拙稿「『理趣広経』のプダク写本と『吉祥最勝本初広釈』との関連性について」(『印仏研』63 に掲載予定) を参照されたい。

- ¹¹ 当該の章の所在については、本稿の「4『理趣広経』の蔵漢所在対照表」における III-17 を参照されたい。
- ¹² チベット大蔵経諸版における ŚP II-2 の所在は、以下の通りである。C no. 123, *ta* 200a6-201a8; D no. 488, *ta* 181a5-182a4; H no. 454, *ja* 149b5-151a5; J no. 460, *ta* 190b5-191b8; L no. 353, *nya* 40a8-41b1; N no. 461, *nya* 338b5-340a3; P no. 120, *ta* 187a5-188a5; Ph no. 477, *tha* 141a2-142a6; S no. 447, *nya* 46b3-47b6; T no. 441 (2), *nya* 39b1-40b2; U no. 487, *ta* 181a5-182a4. また、Y については版本を直接確認することができなかったため、中国蔵学研究中心編纂の『甘珠尔』第 85 卷所収の本章 (pp. 534-536) に対する註記 (p.748) から Y の読みを引用した。なお、『甘珠尔』では、D とは異なる読みだけを註記するという編集方針が採られているため、本稿では『甘珠尔』に明示されている Y の読みだけを後註に付加している。また、D の刊本には数種あるが、本稿では原則として、*The Tibetan Tripitaka: Taipei Edition* (Taipei: SMC Publishing Inc., 1991) を用いた。なお、チベット大蔵経諸版の概要や年代に関しては、佐藤 [2008: 71-92] および渡辺 [1995: (1)-(12)] を参照。
- ¹³ Ph における異読 (byin gyis brlabs kyis) に従って語句を補った。
- ¹⁴ *Tikā* (『丹珠尔』, vol.30: 811) では、「一切如来」とは「世尊・大毘盧遮那」であると註記されている。なお、本稿では、「[2] 和訳 1 (ツェルパ系統に基づく校訂テキスト)」と「[3] 和訳 2 (ブダク写本の校訂テキスト)」とで註記をすべき箇所が同一である場合には、前者にのみ後註を付した。
- ¹⁵ *Tikā* (『丹珠尔』, vol.30: 811) では、「一切如来の拳をしっかりと握りしめること」とは「両手で最勝の菩提の印を結ぶこと」であると註記されている。
- ¹⁶ *Tikā* (『丹珠尔』, vol.30: 811) では、「一切如来の輪」とは「如来の曼荼羅」であると註記されている。
- ¹⁷ *Tikā* (『丹珠尔』, vol.30: 811) では、「自身の金剛薩埵」とは「自身の大菩提心」であると註記されている。
- ¹⁸ 前後の文脈を根拠として、「大持金剛」とは「金剛薩埵」であると判断した。
- ¹⁹ Ph における異読 (dam tshig gi) に従って語句を補った。
- ²⁰ Ph における異読 (bde ba chen po rdo rje) に従って語句を補った。
- ²¹ Ph における異読 (bcom ldan 'das nram par snang mdzad chen po de bzhin gshegs pa thams cad) に従って語句を補った。
- ²² *Tikā* (『丹珠尔』, vol.30: 813) における記述 (bdag nyid nram par snang mdzad nram par spros nas) を根拠として語句を補った。
- ²³ Ph における異読 (phyag rgya bskyed pa'i) に従って語句を補った。
- ²⁴ 前後の文脈を根拠として語句を補った。
- ²⁵ *Tikā* (『丹珠尔』, vol.30: 814) では、「堅固」とは「不壊」であると註記されている。
- ²⁶ *Tikā* (『丹珠尔』, vol.30: 816) では、「金剛慢」とは「金剛薩埵の大印」であると註記されている。その記述 (rdo rje bsnyems pas rdo rje sems dpa'i phyag rgya chen pos) を根拠として語句を補った。
- ²⁷ *Tikā* (『丹珠尔』, vol.30: 816) における記述 (gzungs kyi phyag rgya nams kyis khyil 'khor gsungs pa) を根拠として語句を補った。
- ²⁸ 前後の文脈を根拠として語句を補った。
- ²⁹ 前後の文脈を根拠として語句を補った。
- ³⁰ Ph における異読 (rdo rje bsnyems pa) に従って語句を補った。
- ³¹ 前後の文脈を根拠として語句を補った。
- ³² *Tikā* (『丹珠尔』, vol.30: 816) では、「最勝の三昧耶のうちの最勝」とは「最勝 (dam pa)」であると註記されている。
- ³³ *Tikā* (『丹珠尔』, vol.30: 817) では、「菩薩摩訶薩」とは「金剛薩埵などの智薩埵」であると註記されている。
- ³⁴ 前後の文脈を根拠として語句を補った。
- ³⁵ 前後の文脈を根拠として語句を補った。
- ³⁶ *Tikā* (『丹珠尔』, vol.30: 817) では、「一切如来を礼拝する印によって」とは「如来の両方の拳を縛した後」であると註記されている。
- ³⁷ *Tikā* (『丹珠尔』, vol.30: 818) では、「金剛薩埵」とは「方便と智慧の自性である大菩提心」であると註記されている。
- ³⁸ *Tikā* (『丹珠尔』, vol.30: 818) における記述 (rdo rje rin chen bla na med par 'gyur ro) を根拠として語句を補った。
- ³⁹ Ph における異読 (rdo rje mchog gi glur) に従って語句を補った。
- ⁴⁰ 『真實撰経』(STTS) に存在する同一の偈頌における記述 (vajrakarma[ka]ro bhava) を根拠として語句を補った。
- ⁴¹ 同一の偈頌が、STTS の「金剛界品」における「秘密供養」の箇所が存在する。以下に、STTS における該当する偈頌 (四智讚) のテキストを提示する。
[Skt. (STTS)] (堀内 [1983: 208 (§ 314)])
om vajrasatvasamgrahād vajraratnam anuttaram /
vajradharmagāyanaiś ca vajrakarma[ka]ro bhava //
[Tib. (STTS)] (D no. 479, *nya* 35a1-2; 『甘珠尔』, vol.84: 82)
om
rdo rje sems dpa' bsduś pas na //

rdo rje rin chen bla na med //
 rdo rje chos ni glur blangs pas //
 rdo rje las ni byed par 'gyur //

なお、管見の限りでは、ŚP や STTS よりも時代的に先行して成立していた經典には、当該の偈頌が用いられていない。そのため、どちらか一方の經典においてこの偈頌が成立し、他方に継承されたと推測できる。これに関連して、拙稿(徳重 [2013a])で示したように、灌頂の変遷に基づけば、ŚPの方が時代的に STTS に先行して成立していたと判断できる。以上のことから、ŚPにおいて当該の偈頌が成立し、それが STTS に継承されたと推測できる。

- 42 *Ṭikā* (『丹珠尔』, vol.30: 819)における記述(de bzhin gshegs pa thams cad kyi ye shes kyi gzungs te des ston par byed pa'i rigs las nye bar gdags pas)を根拠として語句を補った。
- 43 *Ṭikā* (『丹珠尔』, vol.30: 819)における記述(phyag rgya gang zhig ce na / bde ba chen po'i rdo rje'i lcags kyus so zhes bya ba smos te)を根拠として語句を補った。なお、*Ṭikā*によれば、「大楽金剛秘密の鉤」とは「如来の両方の拳によって最勝の菩提の印を結んだ後に、右〔手〕の人さし指を鉤にした」という形状の印相である。
- 44 mai に関しては、テキストを何らかの形で訂正する必要が存在するかもしれない。
- 45 前後の文脈を根拠として語句を補った。
- 46 Ph における異読(de bzhin gshegs pa thams cad rdo rje 'chang nye bar gyur pa na)に従って語句を補った。
- 47 *Ṭikā* (『丹珠尔』, vol.30: 819)では、「廣大儀軌」とは「阿闍梨〔の〕作法の儀軌と、弟子引入などの儀軌」であると註釈されている。
- 48 *Ṭikā* (『丹珠尔』, vol.30: 835)における記述(sangs rgyas nyid dam rdo rje 'dzin pa nyid kyi mtshan nyid kyi dngos grub tu 'gyur ba yin pa de bzhin du rnam par snang mdzad bsgrubs pas kyang 'bras bu 'byung bar 'gyur ro)を根拠として語句を補った。
- 49 *Ṭikā* (『丹珠尔』, vol.30: 819)における記述(de nas cho ga rgyas pa ni de bzhin no zhes bya ba ni rdo rje sems dpa'i dkyil 'khor chen por bgegs bsal ba la sogs pa'i cho ga gsungs pa de bzhin du 'dir bya ste)を根拠として語句を補った。
- 50 Ph における異読(de bzhin du cho ga rgyas par bya'o)に従って語句を補った。
- 51 Ph における異読(snying po lan geig bzlas pas)に従って語句を補った。
- 52 *Ṭikā* (『丹珠尔』, vol.30: 838)における記述(rdo rje bsdams pa lag mthil phyed ba bcings la / mthe bo gnyis dpa' bo'i skyil mo krung du byas la mdzub mo gnyis gshibs te rtse mo byas nas)を根拠として語句を補った。
- 53 *Ṭikā* (『丹珠尔』, vol.30: 838)における記述(mthe bo gnyis dpa' bo'i skyil mo krung du byas la mdzub mo gnyis gshibs te rtse mo byas nas / om dhī zhes bya ba zlos shing spyi gtsug tu gzahg la bsgrub par bya ba dang)を根拠として語句を補った。なお、この文章の直後に説かれている「一切衆生を敬愛すること」から「一切如来の自性をなすこと」に関しても、前後の文脈を根拠として同様の語句を補った。
- 54 *Ṭikā* (『丹珠尔』, vol.30: 839)における記述(mdzod spu ru mdzub mo'i rtse mo gnyis bzhag la)を根拠として語句を補った。
- 55 *Ṭikā* (『丹珠尔』, vol.30: 839)における記述(thams cad bsrung ba'i phyag rgya de nyid snying gar bzhag ste)を根拠として語句を補った。
- 56 *Ṭikā* (『丹珠尔』, vol.30: 839)における記述(phyag rgya gar gyi khu tshur gyis bskor la mkhur ba spyi gtsug tu gzahg par bya zhing)を根拠として語句を補った。
- 57 *Ṭikā* (『丹珠尔』, vol.30: 839)における記述(rdo rje khu tshur gnyis bcings pa ste / rdo rje hūm mdzad du bdag nyid bsams la mdzub mo gnyis kyis sdigs mdzub bya zhing)を根拠として語句を補った。
- 58 *Ṭikā* (『丹珠尔』, vol.30: 840)では、「金剛行の印」とは「如来の両方の拳」という形状の印相であり、それによって「布施を与える」と註釈されている。
- 59 *Ṭikā* (『丹珠尔』, vol.30: 840)における記述(g-yon pa'i de bzhin gshegs pa'i khu tshur snying gar bzhag la g-yas pa'i de bzhin gshegs pa'i khu tshur gyi sor mo thams cad brkyang bas sa la reg par bya zhing)を根拠として語句を補った。
- 60 *Ṭikā* (『丹珠尔』, vol.30: 840)における記述(bcom ldan 'das mam par snang mdzad kyi phyag rgya chen po bcings te)を根拠として語句を補った。なお、*Ṭikā*によれば、「金剛智拳〔印〕」とは「世尊・毘盧遮那の大印」であると註釈されている。
- 61 前後の文脈を根拠として語句を補った。
- 62 Ph 以外の諸版における異読(chos can)に従って語句を補った。
- 63 Ph 以外の諸版における異読(bde ba chen po mi phyed pa'i)に従って語句を補った。
- 64 *Ṭikā* (『丹珠尔』, vol.30: 814)における記述(tshul gyis)を根拠として語句を補った。
- 65 Ph 以外の諸版における異読(bde ba chen po'i dam tshig rdo rje gsang ba zhes bya ba'i gzungs)に従って語句を補った。
- 66 Ph 以外の諸版における異読(g-yon du bsnyems 'dzin pa)を根拠として語句を補った。
- 67 第4偈では、C句とD句の位置を入れ替えて翻訳した。
- 68 前後の文脈を根拠として語句を補った。

- 69 Ph 以外の諸版における異読(rdo rje chos ni glur blangs pas)に従って語句を補った。
 70 Ph 以外の諸版における異読(de bzhin gshegs pa thams cad kyi)に従って語句を補った。
 71 Ph 以外の諸版における異読(bde ba chen po rdo rje gsang ba'i leags kyus)に従って語句を補った。
 72 akarsaya に関しては、テキストを何らかの形で訂正する必要がある。
 73 nirmutrasapradra に関しては、テキストを何らかの形で訂正する必要がある。
 74 *Tīkā* (『丹珠尔』, vol.30: 834)における記述(cho ga bstan par bya ba'i phyir bsgrub par bya zhes bya ba la sogs pa gsungs te / 'di bsgrubs pas na sgrub pa ste)を根拠として語句を補った。
 75 *Tīkā* (『丹珠尔』, vol.30: 834-835)における記述(yid la mngon par 'dod pa bsgrub pa'i 'bras bu'i tshul grub par 'dod pa de bzhin du mnam par snang mdzad bsgrub par 'gyur ro)を根拠として語句を補った。
 76 Ph 以外の諸版における異読(thogs pa med par)に従って語句を補った。
 77 前後の文脈を根拠として語句を補った。
 78 brlabs] C D H J L N P S U : rlabs T.
 79 rlob] C D H J L N P S T : rlobs U.
 80 chen add. N.
 81 pos] C D H J P U : po L N S T.
 82 tshig] C D H J L P S T U : chig N.
 83 pa'i] D H J L N P S T U : om. C ; de'i Y.
 84 thugs] C D H J L P S T U : thug N.
 85 rdo rje add. L N S T.
 86 bzhugs] C D H J P U : zhugs L N S T.
 87 po'i rdo rje'i] C D H J P U : po rdo rje L N S T.
 88 'di gsungs] C D H J N P S U : om. L.
 89 dham] C D H J P S T U : dhñh L N.
 90 pa add. P Y.
 91 tu] C D H J L N S T U : du P.
 92 brtan] Ph : bstan C D H J L N P S T U.
 93 'gyur] C D J P U : gyur H L N S T.
 94 bzhad] C D H P S T U : gzhad J L N.
 95 por] C D J U : po H L N P S T Y.
 96 bsnyems pas bzhugs] P Y : snyems pas bzhugs C J ; la snyoms par zhugs D H S U ; la snyoms par bzhugs L N T.
 97 D に関して、*The Tibetan Tripitaka. Taipei Edition* では dkyil 'khor 'di の箇所が判読できないため、高野山大学監修『高野山大学図書館蔵 デルゲ版西藏大蔵経マイクロフィルム』(マイクロシステムサービス, 1976)を用いて判読した。
 98 'di] C D H J U : ji L N S T ; ci P Y.
 99 kyis] C D H J L N P T U : kyi S.
 100 tshig] D H L P S T U : chig C J N.
 101 bkod] C D H L N S T U : dkod J ; dkon P Y.
 102 stwam] H N S T U : stam C D L ; stwam J P.
 103 gzung] C D H J P S U : bzung L N T.
 104 D に関して、*The Tibetan Tripitaka. Taipei Edition* では sems dpa' sems の箇所が判読できないため、高野山大学監修『高野山大学図書館蔵 デルゲ版西藏大蔵経マイクロフィルム』を用いて判読した。
 105 thal] D H J L N P S T U : thar C.
 106 pa] C D H J U : om. L N P S T Y.
 107 pa'i] C D H J P U : pa yi L N S T.
 108 ba'i] C D H J L N P S T U : kyi Y.
 109 rje'i] C D H J P U : rje L N S T.
 110 'dis] C D H J N P S T U : 'dil L.
 111 bya'o] C D J L N P S T U : bya 'o H.
 112 yis] D H J L N P S T U : yi C.
 113 rje] C D H J P U : rje'i L N S T.
 114 zhugs] H L N S T : bzhugs C D J P U.
 115 kyi] C D H J L P S T U : kyis N.
 116 dha] C J L N : dhā D H P S T U.
 117 khe sarba] C D J P U : kha sarba H ; khe sarbba L N S T.

- 118 dharma] Ph : hā ra rma C H J N P ; hā rarma D L T U ; ha rarma S.
 119 sa] Ph : pa C D H J L N P S T U.
 120 ma] C D H J L N P S T : om. U.
 121 sarba] C D H J P U : sarbba L N S T.
 122 ta] C D H J S T U : tā L N P Y.
 123 mai] C D H J L N P U : me S T.
 124 mantra pā daiḥ] D H U : mu tra pā daiḥ C J ; mu drā pra daiḥ L ; mu dra pra deḥ N ; mu tra pā de P Y ; mu drā pa daiḥ S T.
 125 hoḥ] C D H J L N P S U : ho T.
 126 gshegs] C D H J L N P S U : gshye T.
 127 mtshan] C D H L N P S T U : mchan J.
 128 bzhin add. T.
 129 bsgrub] C D H J P U : sgrub L N S T.
 130 kyis] C D H J P U : kyī L N S T.
 131 du bya'o] D L N S T U : du'o C J P Y ; du bya 'o H.
 132 cig] C D L S U : gcig H J N P T Y.
 133 bsrung] C D H J P U : srung L N S T.
 134 mdzod] D H L N P S T U : mjod C J.
 135 spus so] C D H J P S T U : spu'o L N.
 136 kyī] C D H J P U : kyis L N S T.
 137 gdug] C D H J L N P S T : bdug U.
 138 rdo rje] C D H J P U : om. L N S T.
 139 rdzogs] C D H L N P S U : rjogs J.
 140 spyod] D H L N S T U : spyad C J P Y.
 141 kyī bdag] C D H J P U : om. L N S T ; kyī Y.
 142 pa'o] C D J L N P S T U : pa 'o H.
 143 de bzhin gshegs pa'i dkyil 'khor gsungs pa'o // //] D H J P U : de bzhin gshegs pa'i dkyil 'khor gsungs pa'o // C ; om. L N S T Y.
 144 rlob pa'i] C D H J L N P S T : brlob pa Ph ; rlobs pa'i U.
 145 btab] C D H J L N P S T U : 'debs Ph.
 146 pas] C D H J L N P S T U : pa Ph.
 147 gzungs] C D H J L N P S T U : bzungs Ph.
 148 ra] C D H J L N P S T U : ri Ph.
 149 tor] C D H J L N P S T U : gtor Ph.
 150 これについては、福田 [1987: 90-93] を参照。
 151 これについては、田中 [2010: 177] を参照。
 152 川崎氏は、平成 24 年度の密教研究会学術大会において、『理趣広経』に説かれる灌頂儀礼について」という題目で発表を行っており、その際に当該の資料が配付された。